

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 留学生を受け入れ、国際的視野をもつ人材を育成する。	→海外の提携高校等の設置状況。	C
2. 教育研究の国際交流を緊密化する。	→海外からの招聘教員数及び海外派遣数。	B
3. 科学技術英語教育を推進する。	→科学技術英語の内容再編と科学技術英語フォーラムの開催。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 7.0.1	(方針) 関西学院大学の国際交流の方針は、新基本構想の新中期計画に「多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する」とうたわれている。この方針に基づき、国際教育・協力センターと連携して国際交流を進めている。しかし現在、理工学部独自の国際交流の方針は明示されていない。
☆ 小項目 7.0.2	(現状説明) 理工学部の目標である国際的視野をもつ人材の育成、科学技術英語教育の推進、研究教育の国際交流の緊密化を中心に説明する。関西学院大学は韓国のソウルの高校1校とプサンの高校1校と協定を結び、2011年度から外国人留学生海外推薦入試を実施する。理工学部は、国際的視野をもつ人材の育成として、この推薦入試制度に参加することとしている。科学技術英語教育としては、科学技術英語と科学技術英語実習の授業科目が設けられている。特に、科学技術英語実習は募集定員の2倍の希望者がある。また、2005年度に特色GPに採択された「理系学生のためにデザインされた英語教育システム」（2005年度～2008年度）の活動の1つであった「関学英語フォーラム」は引き続き2009年度に1度行っている。研究教育の国際交流の緊密化については、海外からの学生の受け入れ、海外への学生の派遣状況について述べておく。外国人留学生の正規学生（一般入試や外国人留学生入試で入学した学生）は3名、交換留学生は9名であった。2005年度からの人数の推移を見ると増加傾向にある。また、理工学部のカリキュラム上、在学生在が長期・中期の留学を考えることは難しいため、2005年度～2009年度においては留学をした者はいない。一方、夏季休暇を利用した語学研修に参加する学生は5名であった。この人数も増加傾向にある。
☆ その他	理工学部国際交流推進委員会が2009年秋から設置され、理工学部・理工学研究科に関わる国際交流の案件を検討している。

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能なため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【理工学部】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	0	0	0	2	3	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	人	1	4	10	2	9	
		外国人留学生 在籍学生比率	正規	%	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	
			交換	%	0.1	0.3	0.7	0.1	0.5	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	0	0	0	0	0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	人	2	1	2	3	5	
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			短期	%	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	1	0	2	1	1		
		短期	人	3	3	2	2	4		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	0	0	1	0	0		
		短期	人	107	91	91	111	67		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	0		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。

注) 長期、短期について

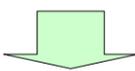
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目7.0.1	
☆ 小項目7.0.2	
その他	



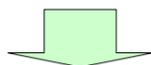
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目7.0.1	
☆ 小項目7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目7.0.1	理工学部の国際交流方針が明示されていない。
☆ 小項目7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目7.0.1	理工学部国際交流推進委員会で、国際交流の方針の策定、ホームページ上の公開について検討していく。
☆ 小項目7.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○すでに活発な交流や科学技術英語教育などを進めておられることは高く評価できます。国際的な視野をもつ人材の育成などを中心に学部としての「目標」を定めることを検討されることが望まれます。

【学内委員】

○学生の国際交流を主として記されておりますが、学部でも教員の国際交流についても記述することが望まれます。学外から教員・研究者を招聘することは学生への好影響があるかと思われます。

○理工学部の国際交流方針はまだ明示されておらず、今後速やかに設定・明示することが求められます。学部の目標として挙げられている海外の提携高校の設置や招聘教員、海外派遣教員の数もまだそれほど多いとは言えず、この点に関して積極的な改善が求められます。科学技術英語の教育に対しては、積極的に行われまた人気も高いため、この点は評価できますが、今後内容のさらなる充実も望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

0.2 (現状説明)

☆ 学外から招聘された教員・研究者は、研究のみならず理工学部講演会などを通して学生にとって最新の研究内容を知るよい機会を提供している。学外から招聘された教員・研究者による理工学部講演会は、2009年度は4件開催した。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
